1.　「平成２９年３月度　キャリアプランセミナー報告

2017. 4. 3
修習技術者支援委員会
委員補佐　阿部修一

2.　研修会概要

日　時　平成 29 年 3 月 11 日(土)
10:00～20:00
主　催　公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会
会　場　日本技術士会　葺手第二ビル5階

3.　セミナーの内容

キャリアプランセミナー 司会・進行	横井　弘文
開会挨拶 修習技術者支援委員会 委員長	10:00～10:05 川村　智
セミナーの概要説明 修習技術者支援委員会 委員	10:05～10:15 横井　弘文
講演1 「技術士になるための必要なキャリア」 技術士(電気電子部門)	10:15～10:50 横井　弘文氏
講演２ 「先輩技術士の事例紹介」 技術士(上下水道、衛生工学、総合技術監理部門) 技術士(化学部門) 技術士(上下水道部門)	10:55～12:00 嶌田　泰彦氏 秋元　英郎氏 笹尾圭哉子氏
講演の終了あいさつ 休憩 グループで昼食、自己紹介	12:00～13:00
グループ討議「技術士になるためのキャリアプラン」	13:00～16:50
グループ討議結果の発表、質疑応答・アドバイス	16:50～18:00
講評 修習技術者支援委員会 副委員長	18:00～18:05 石附　尚志
閉会にあたって	18:05～18:10
休憩、交流会の準備	18:10～18:25
情報交流会(懇親会)	18:25～20:00

4.　セミナーの参加者

今回のセミナーには、30 名の参加者があった。参加者の 80%は準会員（技術士補、技術士第一次試験合格者）で、20%は非会員（技術士補、技術士第一次試験合格者）であった。

無記名によるアンケートの集計（回答者数 28 名）を行った。参加者の技術部門は、機械が 7 名、建設が 6 名、情報工学が 5 名、電気電子が 3 名、化学が 2 名、金属が 1 名、その他が 4 名で各部門からの出席があった。参加者の居住地は、東京が 11 名、神奈川が 5 名。茨城と埼玉が 3 名、千葉が 2 名、群馬が 1 名その他が 3 名であった。年齢では、20 代以下が 6 名、30 代が 12 名、40 代が 6 名、50 代が 1 名、60 代以上が 2 名、記入無が 1 名であった。参加の動機（複数回答）では、「修習の一環」としての参加が半数以上を占めているが、「CPD その他」などは、比較的少なかった。

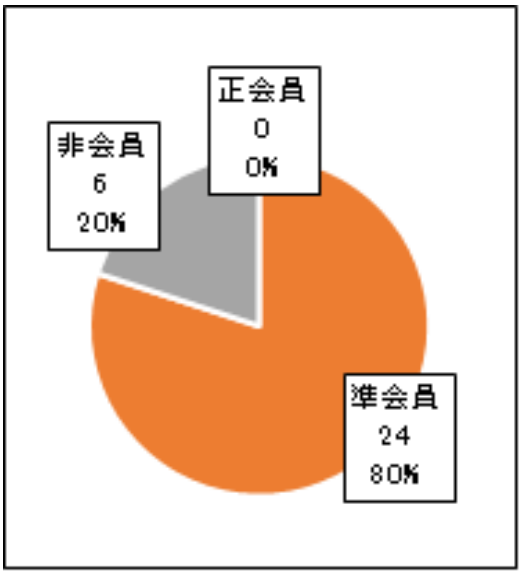

図 1　参加者ステータス

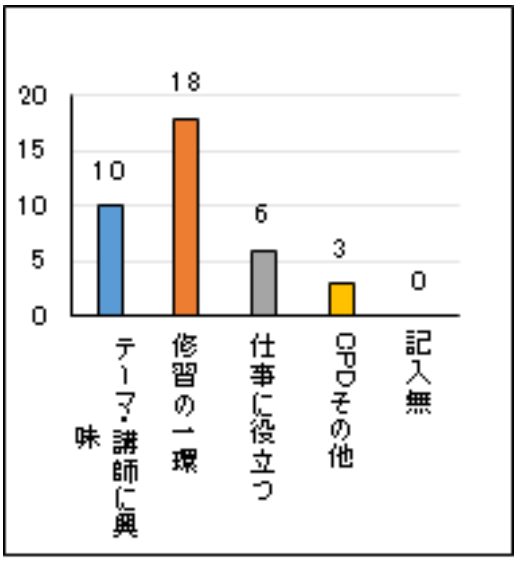

図 2　参加動機（複数回答）

5.　セミナーの状況について

3 月度のセミナーの基本課題は「業務遂行能力」である。

◆　本セミナーの目的について

今セミナーの目的は「技術士になるためのキャリアプラン描く」である。

技術士の方の講演をヒントに、技術士の姿をイメージして、自分が技術士になるためのキャリアを考え、キャリアを身につけるためのプランを考える貴重な機会となった。

◆　講演 1 について

電気電子部門の横井氏の講演は、自身の経験を通したキャリア形成についての講演であった。学生時代に考えていなかった技術者になった経緯、技術者になってから技術士を目指した経緯、そして今後のキャリア形成についての自身の考えを参加者にアドバイスしていただいた。横井氏のキャリア形成は常にオープンマインドで、与えられた業務をこなすことで結果としてキャリアを形成することができたことである。参加者に、計画に縛られず、オープンマインドでキャリア形成に取り組み、現在の自分と目標とする技術士像のギャップを埋める PDCA を回すと良いとアドバイスしていただいた。

技術士を目指す参加者が、キャリアプランについて理解することができる貴重な講演であった。

写真 1　横井氏の講演

◆　講演 2-1 について

上下水道部門、衛生工学部門、総合技術監理部門の嶌田氏の講演は、自身の技術士取得を目指したきっかけ、どのように業務経験を積んだか、技術士会とのつながりについての講演であった。業務経験とは、多面的な視野で自分の業務を遂行することであるとのアドバイスをしていただいた。上下水道部門の受験の際は自分の実験の業務だけでなく、その業務を行う理由、実験結果がどのような影響を与えるかなど全体像の把握に努めた。衛生工学部門及び総合技術監理部門の受験の際は技術的な視点とプロセス全体管理の視点を持つことで業務を見直したと説明があった。技術士会とのかかわりでは、多様な視点を持つため、他部門の技術士との交流が重要と考えていると貴重なアドバイスをいただいた。

写真 2　嶌田氏の講演

◆　講演 2-2 について

化学部門の秋元氏の講演は、独立開業技術士としてどのような手法で成功したかの講演であった。独立開業について、悪い点と本日の良い点を説明された。悪い点は独立しても売り上げが少ない技術士が多いことである。本日の良い点は、成功者である秋元氏の話を本日の参加者が聞けることである。独立して成功するために必要なことは、1.独占業務を作ること　2.知名度をあげること　である。独占業務を作るためにはアウトプットを考えた CPD を行うこと。知名度を上げるためには情報発信をすることとアドバイスしていただいた。参加者に、独立した時にどのくらいの年収になるかを考えさせるなど、参加者のモチベーション向上につながる講演であった。

写真 3　秋元氏の講演

◆　講演 2-3 について

上下水道部門の笹尾氏の講演は、自身の技術者を目指した経緯、技術士を目指したきっかけ、技術士になってみて、参加者へのアドバイスの講演であった。自分がはじめて主担当になった大きな業務の体験論文で合格することができたと、業務経験についての重要性をアドバイスしていただいた。技術士になってからは昇進した、社外の方から声をかけていただくようになった、人脈が拡大したなどのメリットを説明していただいた。技術士として大切なことは、満足できる仕事をして社会貢献し、自分にフィードバックすることと、参加者へ技術士の持つべき意識をアドバイスしていただいた。最後に、技術士取得のために笹尾氏が実践したことをアドバイスしていただき、参加者は非常に貴重なお話を聞くことができた。

写真 4　笹尾氏の講演

◆　グループ討議について

グループ討議は、4～5 人の 6 つのグループに分かれ、横井氏の講演で説明があった、「キャリアプランの立て方」を参考にして、「技術士になるためのキャリアプラン」を纏めることであった。各グループの討議の特徴を以下に挙げる。

グループ A

A は若手（20 代、30 代）のグループである。役割分担とスケジューリングがしっかりしていた。メンバーの意見もしっかりしており、説明も上手であった。早い段階でまとめに入っており、プレゼン資料が綺麗にまとまっていた。

グループ B

B は若手（20 代、30 代）のグループである。リーダーである女性が積極的にグループを纏めていた。討議も「キャリアプランの立て方」通りに順番に討議しており、メンバー全員が理解できるよう進行されていた。早い段階でまとめに入っており、PDCA がわかるプレゼン資料を作成していた。

グループ C

C は若手～中堅～ベテラン（20 代、30 代、60 代）のグループである。各自の意見を付箋紙に細かく記載していた。ある程度意見を出した後、各自、意見について丁寧に説明していた。ステータス向上のため技術士を目指すという意見があったのが興味深かった。意見が一番多く出たグループだが、項目ごとに丁寧にプレゼン資料を作成していた。

グループ D

D は若手～中堅（20 代、30 代、40 代）のグループである。各自の意見を付箋紙に細かく記載していた。ある程度意見を出した後、各自、意見について丁寧に説明していた。その後、活発な意見が交換されていた。レーダーチャートを利用してプレゼン資料を作成していたことが興味深かった。

グループ E

E は中堅（30 代、40 代）のグループである。役割分担を決めた後、最初から各自の意見を付箋紙に細かく記載していた。ある程度意見を出した後、各自、意見について丁寧に説明していた。6 グループの中で一番落ち着いて討議されていた。プレゼン資料を几帳面に作成していた。

グループ F

F は中堅～ベテラン（40 代、50 代、60 代）のグループである。最初に各自技術士を目指す理由などについての説明から始めた。その後、付箋紙にキーワードで各自の意見を書き出していた。ある程度意見が出た後に、各自そのキーワードの内容について丁寧に説明していた。現在→将来の自分の流れで、わかりやすいプレゼン資料を作成していた。

◆　　グループ A の発表

自分たちが考える技術士に必要な資質と能力を挙げ、現在の自分たちに足りない能力（ギャップ）を発表した。ギャップを埋めるために以下に示すアクションプランが必要であると発表した。

1. 幅広い知識を得るため異分野交流する。
2. マネジメント能力を習得するため積極的トラブル対応する。
3. 発信力を持つため論文を書く。

メンバー各自、いつまでに行うと時期を明確に説明した。質疑応答も明確に答えた。

写真 5　グループ A の発表

◆　　グループ B の発表

過去、現在の自分を振り返り、なりたい未来の自分と現在の自分のギャップを発表した。ギャップを埋めるために以下に示す PDCA を回すと発表した。

1. 専門的知識を増やすために、資格を取得する。そのために業務の優先順位をきめて残業を減らす。
2. 組織間の問題に対し最適な解を求めるために、組織間のボトルネックを見える化する習慣を身に着け、ボトルネックへのアクション頻度を増やす。

最後にまとめとして、プランを実行するために考えなければならないことは、1. 個人の自己研さん 2. 組織への活用であると多面的な視野で検討したことを発表した。質疑応答も明確に答えた。

写真 6　グループ B の発表

◆　　グループ C の発表

現在、過去の自分を振り返り、なぜ技術士になりたいのかを発表した。そして、そこから現在の自分と技術士のギャップを埋めるために以下に示す行動をすると発表した。

1. 専門的知識取得のためセミナーや講演会に参加する。
2. 技術士試験合格のため過去問を解く。

質疑応答で、技術士試験合格のために過去問を解くとなぜ資質が向上するのかの問いに対して明確に回答することができなかった。今後の修習で PDCA を回し、理解を深めることを期待したい。

写真 7　グループ C の発表

◆　　グループ D の発表

レーダーチャートで 7 つのコンピテンシーを挙げ、現在の自分の自己採点を行い、以下に示すギャップを埋める方策を発表した。

1. コミュニケーション能力向上のために異業者交流を行う。
2. リーダーシップ能力向上のために後輩を指導する。

質疑応答で技術士の方から、コミュニケーション能力とは、顧客の要望を聞き出す力と、

要望を満たすための提案力である。そのために必要なことは、自ら発信する場を作ることが良いとのアドバイスをいただいた。メンバーにとって貴重な発表になったと考える。

写真 8　グループ D の発表

◆　グループ E の発表

メンバー各自のプランと以下に示すプランの要点を検討し発表した。

1. 技術士試験合格は通過点であり、技術士になった後、次の世代に技術の橋渡しをする。
2. 専門家として社会貢献のためインプット（情報収集）とアウトプット（情報発信）する。

質疑応答で、アウトプットすることの価値は何かとの問いに対して、後世に伝えるためであると、要点で纏めた内容と一致していた。メンバー各自、セミナーに参加した目的を達成することができたのではないかと考える。

写真 9　グループ E の発表

◆　グループ F の発表

将来のなりたい自分から逆算して、ギャップを埋めるために必要な以下に示すキャリアプランを発表した。

1. 応用能力向上のため現場と技術を融合させる。
2. コミュニケーション能力向上のためセミナーへ参加したり分野外の人脈を作る。

グループとしてのプランの発表のみで、メンバー各自のプランの発表がなかった。したがって、質疑応答で各自のプランを説明して下さいとの質問が出たが、1 人 3 分程度と回答時間が長すぎた。今後の修習で短く簡潔に回答できるよう研鑽を積むことを期待したい。

写真 10　グループ F の発表

6.　講評

修習技術者支援委員会　副委員長の石附がグループ発表に対する講評を行った。

技術士は、単純な技術的問題だけでなく、様々な問題を扱わなければならない。技術上の問題のほか、工程、組織、リスクマネジメント、環境、倫理、予算上の問題などの複合的な問題を解決することが求められる。今後の修習で理解していっていただきたい。

また、各グループで、リーダーシップの捉え方が違っていると思うので、修習ガイドブック-第 3 版を、もう一度、よく読んでいただきたい。

7.　情報交流会（懇親会）

情報交流会では、講演をされた技術士の方や参加者を囲んで、講演やグループ討議などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。今後の修習活動に向けた積極的な情報交換の場となった。

【参考】講演の動画は YouTube にて公開中。

https://www.youtube.com/watch?v=aUQyvQkEr5U

※「修習技術者」で検索すると見つかります。

以　上